

株主様向け  
アンケート

## 株主のみなさまの 声をお聞かせください

当社では、株主のみなさまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、  
アクセスコード入力後に表示される  
アンケートサイトにてご回答ください。  
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 4975

Yahoo!、MSN、exciteのサイト  
内にある検索窓に、いいかぶと  
4文字入れて検索してください。

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い  
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に  
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」  
サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細  
<http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させ  
ていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

### ●株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告により、当社ホームページ ( <a href="http://www.eu.ebara.com/">http://www.eu.ebara.com/</a> )に掲載いたします。 なお、やむを得ない事由により、電子公告による ことができないときは、日本経済新聞に掲載して 行うものとします。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
電話お問合わせ先・ 郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
証券コード	4975
金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部



### 荏原ユーザライト株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7  
TEL: 03-3833-0321 FAX: 03-3833-5075  
<http://www.eu.ebara.com/>



地球環境に配慮した大豆油  
インキを使用しています。

証券コード: 4975

JCU (荏原ユーザライト株式会社)



第49期 年次報告書 2008.4.1 - 2009.3.31  
株主・投資家のみなさまへ

## 株主・投資家のみなさまへ

### 株主・投資家のみなさまには、 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループの当期の決算は、上半期はすでにご報告の通り、国内・海外子会社とも売上高及び当期純利益につきましては、順調に推移いたしました。しかし、下半期は一転して、10月、11月、12月と、月次を追うごとに売上が国内・海外ともほぼ同時に急速に下落いたしました。その上、急激な円高基調となり、連結するために円換算いたしますと、海外子会社すべてにおいて、為替差損が発生しました。

結果として、売上高は当初売上予算122億66百万円を2月6日付で修正させていただいた107億22百万円とほぼ同様の107億88百万円となりました。営業利益は5億43百万円となりました。当期純利益は為替差損及び有価証券の評価損合計約3億74百万円と税金分を差引きまして、かろうじて2百万円の黒字を計上することができました。

すでに海外は50期の第1四半期が終わり、2月から3月にかけて、回復基調が鮮明になってきております。それにつきましては、当社のホームページの社長メッセージに詳細を書いておきましたので、ご参照賜れば幸甚です。

下半期の売上不振の原因は、リーマン・ブラザーズの破綻に端を発する世界大金融恐慌とも思しき世界同時不況が原因であることは、みなさまご承知の通りです。当社の大

事なお客様である自動車業界は、洋の東西を問わず不振を極めており、特に日本では未だ操業率50%の状態です。

EU主要国が自動車に関する税金の減免処置や補助金対策を強気に打ち出しても、未だ90%に満たない回復状況との情報です。アメリカも未だにビッグ3の問題に頭を痛めています。GM、クライスラーの破綻を心配しています。

日本は、大型の補正予算案の中にエコカーに対する減税や補助金が盛り込まれていると聞いておりますが、自動車産業の回復にどの程度影響が出てくるか現在のところ分かりません。自動車の在庫状況は少しずつ改善され、生産を本格的に再稼働させる時期は6月以降と聞いていますが、当社の売上にはっきり表れるのはいつのことが明確には申し上げられません。ただ、はっきり申し上げられることは、中国の自動車産業は現在活況を呈しています。中国・張家港のトヨタ系企業のプラめっきラインは4月からフル生産に入っており、その他の日本の自動車部品メーカーのめっき薬品の売上も急速に回復しております。トヨタ、ホンダ、日産ともハイブリッドカーや電気自動車の最新バージョンをどんどん中国市場に投入すると聞いており、日本自動車メーカーの復活は中国にかかっていると言っても過言ではないように思われます。

一方、携帯電話や小型パソコンの市場は、中国では3月からフル生産の状態です。韓国大手メーカーのプリント基板用銅めっき薬品の売上は今年のピーク時と変わらなくなってきて

おり、顕著に回復基調にあると申し上げてもよいと思います。

台湾のプリント基板専門メーカーもやっと立ち上がりつつありますが、本格的な回復には今少し時間がかかると思います。

さて、日本はといえば、プリント基板加工専門会社の稼働状態は惨憺たる有様で、回復の兆候さえありません。MPU関係のパッケージ基板メーカーの操業がかるうじて本格化できる状況になりつつある程度で、他のアジア諸国と比べれば、これからというところでしょう。勿論、すでに中国に工場進出している会社の稼働状態は日本より断然良くなっていると推察しております。

### こうした状況を踏まえ、 当社の戦略は以下の通りです。

- 1 当面、中国、韓国、台湾を対象に、技術と営業のベテランの特別戦略チーム(フロントライン)を国別、製品別に編成し、スピーディに派遣可能な体制をとりました。拡販目標は既存の製品の他、新規開発製品(VFIV、TFII)やPTH最新版、及びエッチング分野や金めっき薬品、米国コロムビア社の垂鉛めっき薬品などを集中的に行うこととしました。
- 2 ドライ製品の拡販
  - ①携帯電話のカラーリングとトップコート処理事業の推進。
  - ②プラズマによるソフトエッチング、デスマリア処理、デスカム処理、金めっき前処理・後処理など。

- 3 為替リスク対策として、現地生産化の拡大。
- 4 フロントラインチーム全員到北京語、韓国語の教育を実施。
- 5 その他売れる製品の事業化のための市場調査。
- 6 装置部門の国際化。中国の3R運動に呼応しためっき液の回収、資源化、リサイクル化のための事業開発と拡販(特に酸化銅)。

勿論、自動車メーカーやその部品メーカーのワークシェアリングに合わせて、本社、工場、研究所とも週1日公休とし、役員はもとよりその資格に見合う報酬の削減も同時に行っています。なお、海外はすでに通常勤務となっています。

今回の不況の嵐の中、経営者のもとより、幹部社員、一般社員とも一致団結して、雇用だけは守る決意です。配当につきましては、この決算内容からして誠に申し訳ありませんが、30円のところを27円とさせていただきます。どうか株主・投資家のみなさまにはなお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2009年6月



荏原ユーザイト株式会社  
代表取締役社長

荏原 悠介

当社の製品・事業内容について、セグメント別概況とともにご紹介いたします。

## ● 薬品関連資材事業

薬品関連資材事業全体の売上高は81億50百万円、前年同期比0.8%増となりました。しかし、この中でJCUグループにとって収益の柱である自社製めっき薬品の売上高は前年同期より4.5%減少し、65億94百万円となりました。この落ち込みの原因は、昨年9月に起こったリーマン・ショック以降の自動車及び電子業界における大幅な減産によるものです。しかし、海外における売上高の落ち込みは国内ほ

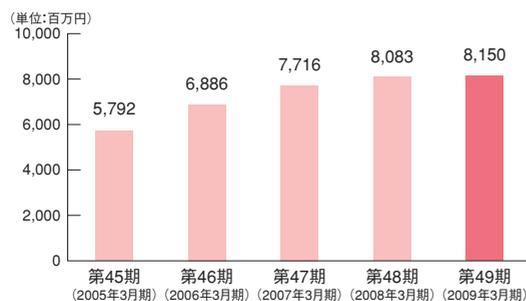
どは大きくなく、その結果、海外売上高比率はますます高くなりました。

今後とも、マーケットの拡大が期待される中国をはじめとした新興各国における自社製めっき薬品の販売は当社の利益確保にとって非常に重要であり、その強化を目的として新製品の投入、現地生産比率の向上、技術及び営業サポート等、さまざまな戦略を展開してまいります。

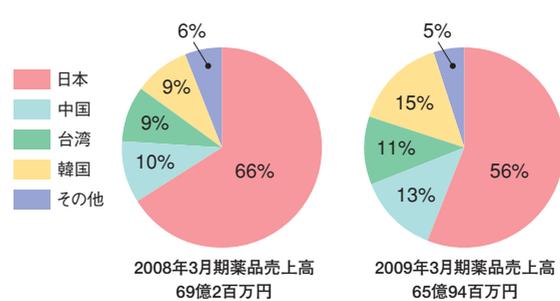


自動車部品      水栓金具      ねじ      フレーム      配線板

### ■ 薬品関連資材事業の売上高推移



### ■ 地域別薬品売上高対比



## ● 装置事業

装置事業は、リーマン・ショック以前のめっき装置の受注が好調であったため、売上高は25億84百万円、前年同期を上回る売上高を達成することができました。

しかし、今後の国内における大きな業績拡大は望めず、海外における販売をより一層強化してまいります。この具体策として、めっき装置の現地製造を推進してまいります。



めっき装置

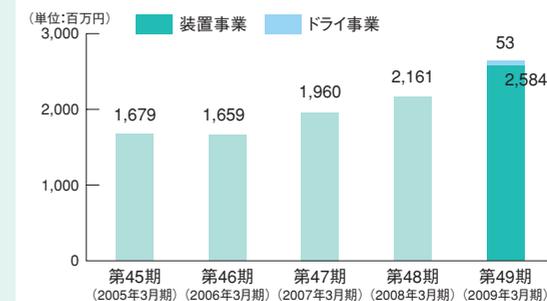
## ● ドライ事業

新規事業として始めたスパッタリングによるカラーリング事業とプラズマ処理装置の販売は、当社グループの将来にとって非常に重要なものであり、当期より装置事業から分離し、ドライ事業とすることにいたしました。



プラズマ装置

### ■ 装置事業及びドライ事業の売上高推移



中央研究所を藤沢市から川崎市のマイコンシティ栗木地区に新設移転してから2年が経ちました。製品の研究開発をとおり、これからのJCUを支える総合研究所をご紹介します。

## 総合研究所



- 【総合研究所概要】
- 場所：川崎市麻生区栗木2-4-3
  - 設立：2007年4月（藤沢市から移転）
  - 敷地面積：5,465m<sup>2</sup>
  - 建物面積：6,000m<sup>2</sup>
  - 勤務社員数：約80名
  - 主な研究開発活動：表面処理薬品の研究開発（基幹分野と電子分野）、装置の研究開発（液管理装置、ドライブプロセス）

## 未来世代へつなげる地球環境のための設備

### 環境への配慮



#### ヒートポンプシステム

ヒートポンプにより廃熱の回収・有効再利用がなされています。



#### 排水処理設備

研究開発により生じた排水は、最新鋭の排水処理場で完全な処理がなされます。



#### ソーラーシステム

研究所の屋上にあるソーラー発電システムにより、使用電力の一部がまかなわれます。

## 最新の研究設備とともに、表面処理の世界をひろげる研究開発

### 表面処理薬品の研究開発



#### 研究室

新しいめっきプロセスの開発は、基礎研究から始まります。



#### 精密測定装置

研究開発をサポートするために、最新分析機器を有する「解析センター」が活躍しています。



#### パイロットプラント

新規開発めっきプロセスを市場にリリースする前に、「パイロットプラント」において操業試験が行われます。

## 装置の研究開発



#### プラズマ装置

電子機器の高性能化、小型化に伴い、最先端のプリント配線板製造技術は半導体の域に達するほど急速に進化しています。このため、従来のウェット処理では困難な処理もプラズマシステムにより解決できます。



#### スパッタリング装置

携帯電話ケース等のカラーリング用としてスパッタリング装置を開発しました。従来のものと異なり、さまざまな色調を得ることができ、受託加工を行うべく準備を進めています。

連結貸借対照表

区分	当期 2009年3月31日現在	前期 2008年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	6,437,244	6,540,675
現金及び預金	2,704,533	2,064,005
受取手形及び売掛金	2,209,204	3,218,718
たな卸資産	1,147,379	972,261
繰延税金資産	96,640	168,988
① その他	300,792	126,188
貸倒引当金	△ 21,304	△ 9,488
固定資産	4,360,157	4,311,000
有形固定資産	3,102,982	3,140,972
無形固定資産	65,255	25,452
投資その他の資産	1,191,919	1,144,575
資産合計	10,797,402	10,851,675

- ① 債権流動化による売渡債権は413,213千円であり、うち支払留保されている129,750千円が「その他」に含まれております。
- ② 短期借入金、長期借入金の増加は、主に、手許資金の確保を目的に運転資金として借入れを実施したものであります。

(単位：千円)

区分	当期 2009年3月31日現在	前期 2008年3月31日現在
【負債の部】		
流動負債	4,174,998	3,653,762
支払手形及び買掛金	1,864,571	1,888,102
② 短期借入金	518,900	187,008
一年内返済予定長期借入金	548,004	648,000
リース債務	5,927	5,570
未払法人税等	46,893	30,766
賞与引当金	167,923	210,153
前受金	689,754	321,689
その他	333,023	362,473
固定負債	2,261,845	1,878,395
② 長期借入金	1,565,662	1,147,000
リース債務	177,903	183,830
退職給付引当金	422,428	439,042
その他	95,852	108,522
負債合計	6,436,844	5,532,158
【純資産の部】		
株主資本	4,842,749	5,350,912
資本金	922,562	910,562
資本剰余金	875,211	863,211
利益剰余金	3,391,269	3,577,730
自己株式	△ 346,293	△ 592
評価・換算差額等	△ 500,280	△ 61,863
その他有価証券評価差額金	△ 202,308	△ 103,337
繰延ヘッジ損益	△ 2,605	—
為替換算調整勘定	△ 295,367	41,473
少数株主持分	18,088	30,468
純資産合計	4,360,557	5,319,517
負債純資産合計	10,797,402	10,851,675

連結損益計算書

区分	当期 (自 2008年4月 1日 至 2009年3月31日)	前期 (自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日)
売上高	10,788,574	10,244,860
売上総利益	4,387,363	4,616,298
販売費及び一般管理費	3,843,987	3,929,126
営業利益	543,375	687,172
経常利益	320,637	627,703
税金等調整前当期純利益	135,098	573,904
当期純利益(注)	2,408	291,280

(注)当期は営業外損失として為替差損を1億94百万円、特別損失として投資有価証券評価損を1億78百万円計上しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

区分	当期 (自 2008年4月 1日 至 2009年3月31日)	前期 (自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,441,283	382,311
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 766,844	△ 1,251,307
財務活動によるキャッシュ・フロー	154,186	1,078,440
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 187,057	△ 2,615
現金及び現金同等物の増加額	641,568	206,828
現金及び現金同等物の期首残高	1,855,179	1,648,351
現金及び現金同等物の期末残高	2,496,748	1,855,179

連結株主資本等変動計算書 (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)

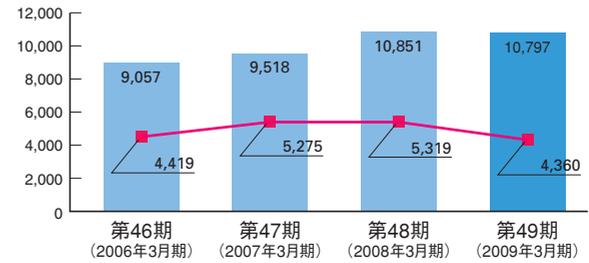
(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2008年3月31日残高	910,562	863,211	3,577,730	△ 592	5,350,912	△ 103,337	—	41,473	△ 61,863	30,468	5,319,517
連結会計年度中の変動額											
新株の発行	12,000	12,000			24,000						24,000
剰余金の配当			△ 188,869		△ 188,869						△ 188,869
当期純利益			2,408		2,408						2,408
自己株式の取得				△ 345,701	△ 345,701						△ 345,701
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△ 98,970	△ 2,605	△ 336,840	△ 438,416	△ 12,380	△ 450,796
連結会計年度中の変動額合計	12,000	12,000	△ 186,461	△ 345,701	△ 508,162	△ 98,970	△ 2,605	△ 336,840	△ 438,416	△ 12,380	△ 958,959
2009年3月31日残高	922,562	875,211	3,391,269	△ 346,293	4,842,749	△ 202,308	△ 2,605	△ 295,367	△ 500,280	18,088	4,360,557

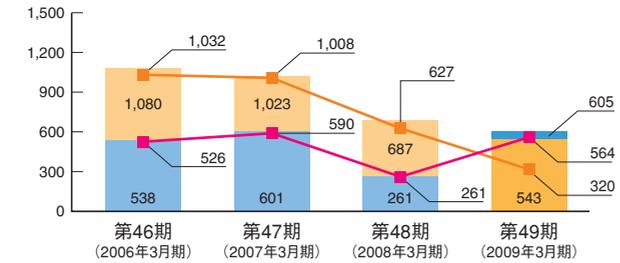
● 売上高(単位:百万円) ■ 第2四半期 ■ 期末



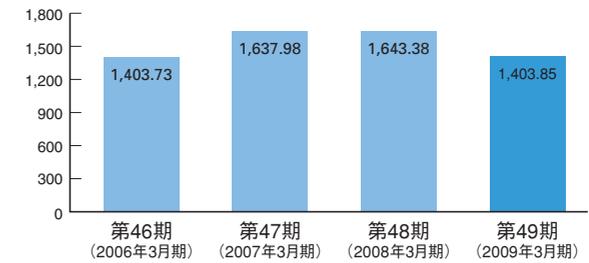
● 総資産、純資産(単位:百万円) ■ 総資産 ■ 純資産



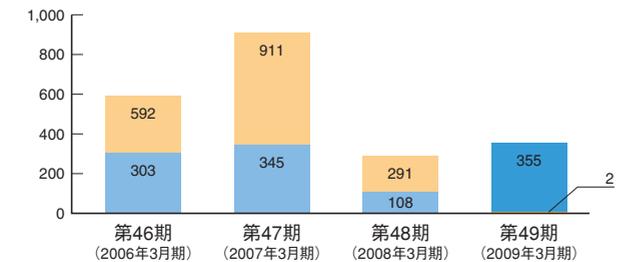
● 営業利益、経常利益(単位:百万円) ■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 第2四半期 ■ 期末



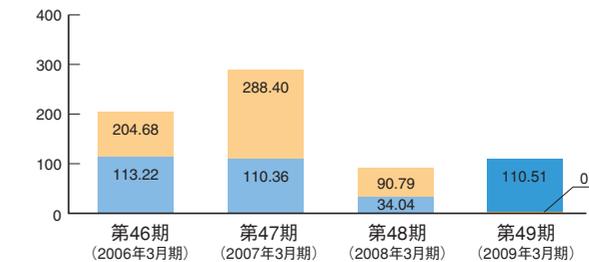
● 1株当たり純資産額(単位:円) (2006年4月1日付の株式分割などを加味し調整値にて作成)



● 四半期及び当期純利益(単位:百万円) ■ 第2四半期 ■ 期末



● 1株当たり四半期及び当期純利益(単位:円) ■ 第2四半期 ■ 期末 (2006年4月1日付の株式分割などを加味し調整値にて作成)

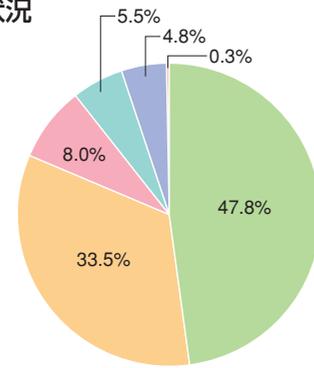


● 株式の状況

発行済株式総数 ..... 3,250,500株  
株主数 ..... 3,721名

● 所有者別株式分布状況

- 国内法人 47.8%
- 個人 33.5%
- 外国法人 8.0%
- 金融機関 5.5%
- 自己名義株式 4.8%
- 証券会社 0.3%



● 大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
粕谷 佳允	160,100	5.17
エフ ビー エフ 2000, エル. ビー.	113,500	3.66
日本パーライジング株式会社	113,500	3.66
日本高純度化学株式会社	110,000	3.55
荏原実業株式会社	100,000	3.23
株式会社スレイ	100,000	3.23
日本化学産業株式会社	93,000	3.00
中央化学産業株式会社	82,600	2.67
神谷研研株式会社	80,000	2.58
栄電子工業株式会社	80,000	2.58
株式会社ユニゾーン	80,000	2.58

(注) 出資比率は自己株式を控除して計算してあります。

● 商号 荏原ユーージャイト株式会社  
● 本社所在地 東京都台東区台東4丁目19番9号 山口ビル7  
● 設立 1968年(昭和43年)4月1日  
● 資本金 922,562,500円  
● 事業所 【国内】  
大阪支店 名古屋支店 高崎支店 浜松営業所  
九州営業所 総合研究所 新潟工場

【連結子会社】

- ・荏原ユーージャイト(上海)貿易有限公司
- ・広州分公司/蘇州分公司
- ・台湾荏原ユーージャイト股份有限公司
- ・EBARA-UDYLITE (KOREA) CO.,LTD.
- ・EBARA-UDYLITE (ASIA-PACIFIC) CO.,LTD.
- ・EBARA-UDYLITE AMERICA,S.A.DE C.V.
- ・EBARA-UDYLITE VIETNAM CO.,LTD.
- ・荏原ユーージャイト貿易(深圳)有限公司

【関連会社】

- ・PROGRESSIVE EU CHEMICALS PVT. LTD.

● 役員一覧 (2009年6月26日現在)

- |           |       |
|-----------|-------|
| 代表取締役社長   | 粕谷 佳允 |
| 取締役副社長    | 小澤 恵二 |
| 専務取締役役員   | 大木 繁司 |
| 専務執行役員    |       |
| 常務取締役役員   | 上谷 正明 |
| 常務執行役員    |       |
| 取締役常務執行役員 | 中澤 隆司 |
| 取締役常務執行役員 | 君塚 亮一 |
| 社外取締役     | 山本 雅司 |
| 執行役員      | 吉川 豊  |
| 執行役員      | 中村 憲二 |
| 執行役員      | 石井 洋二 |
| 執行役員      | 木村 隆男 |
| 常勤監査役     | 大野 寛二 |
| 社外監査役     | 伴 峰夫  |
| 社外監査役     | 岸 富也  |
| 社外監査役     | 高中 正彦 |

● 従業員数 連結 290名(51名) 単体 221名(13名)  
(注) 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。